

沿岸重要漁業資源の管理に関する研究*

阪本 俊雄・武田 保幸

目 的

委託調査の指定対象魚種以外で本県沿岸漁業にとって重要な漁業資源について、モニタリングと資源の診断を行ない、資源の合理的利用について提言を行なう。

調査内容と結果

本年度は昨年度に引き続きマルアジ、スルメイカ、サンマ、カツオについて、漁業生物情報のモニタリング調査を行なった。

マルアジ 本年度の体長測定尾数は表1のとおりである。図1に体長組成の経月変化と昭和60年度本調査で得られた生長予想曲線を示した。

表1 マルアジ生物測定尾数

尾, 1987.4 ~ 1988.3												
4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
605	359	751	744	241	316	558	383	366	194	350	515	5,382

昨年度から継続している産卵生態に関する調査については、1985年7月～1987年7月に測定した889個体の材料から以下のとおり要約される。*2

抱卵数(卵巣内卵数)：満1, 2, 3歳の抱卵数はそれぞれ約50,000, 140,000, 320,000粒。

卵巣内透明卵数：満1, 2歳の透明卵数はそれぞれ約8,000, 18,000粒で多回産卵。

1歳魚の産卵加入状態：満1歳魚は約98%が産卵に係わっているとみられる。

今後とりあえず実施しておきたい課題は標識放流による親魚の分布回遊である。

スルメイカ 昨年度より引き続き生長、成熟等のモニタリングを行なった。

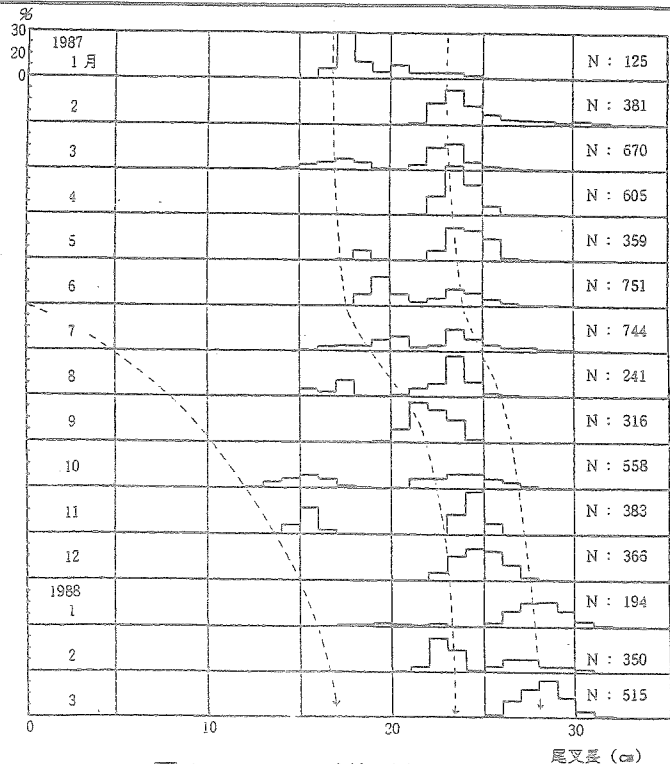


図1 マルアジ体長組成
破線は阪本・武田(1986)
による生長予想曲線

* 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究費による。
昭和62年度南西海区ブロック外海資源・海洋研究会で発表。
武田保幸(1988)：紀伊水道産マルアジの年齢群別産卵数について、南西外海の資源・海洋研究, 4, 27-32。

測定尾数は表2のとおりである。これらの結果から、体長組成は図2に、体長と生殖腺重量の関係を図3(雄)、図4(雌)にそれぞれ示した。図2には出現体長の範囲をフリーハンドで結んだ生長予想曲

表2 スルメイカの生物測定尾数

尾, 1987.4 ~ 1988.3

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
体長測定	—	53	70	95	61	103	—	230	309	268	—	45	1,234
精密測定	39	49	276	80	114	77	72	41	50	40	41	—	879
計	39	102	346	175	175	180	72	271	359	308	41	45	2,113

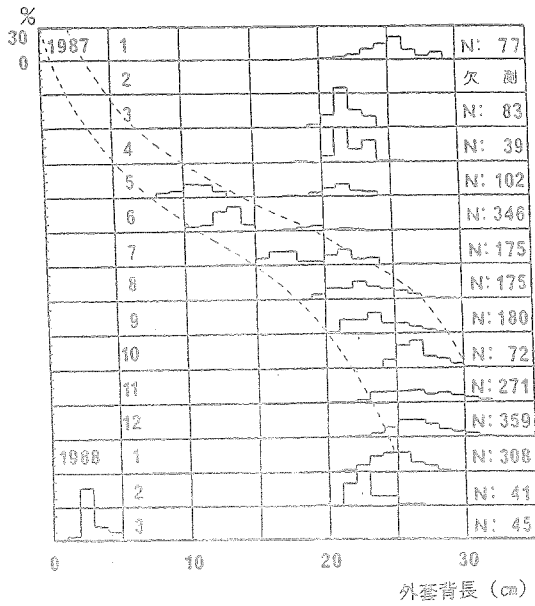


図2 スルメイカ体長組成
破線は出現体長の範囲をフリーハンドで結んだ生長予想曲線

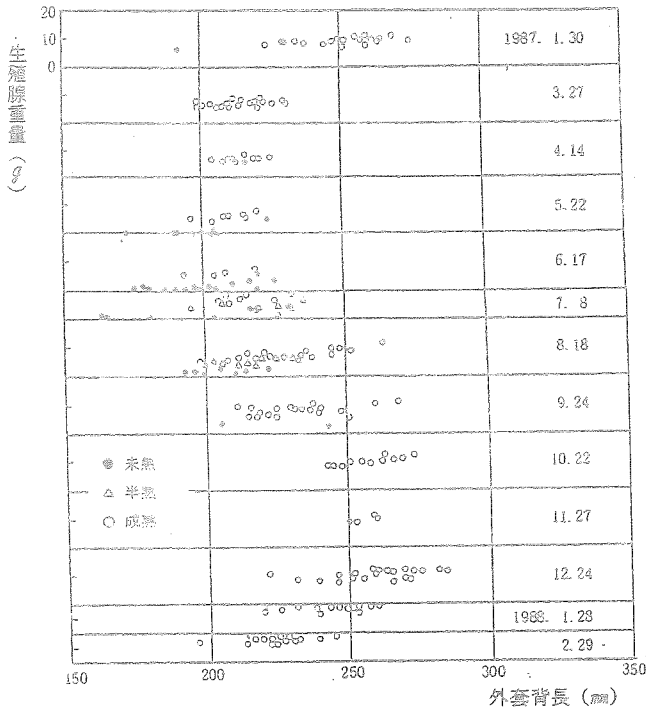


図3 体長と生殖腺重量の関係(雄)

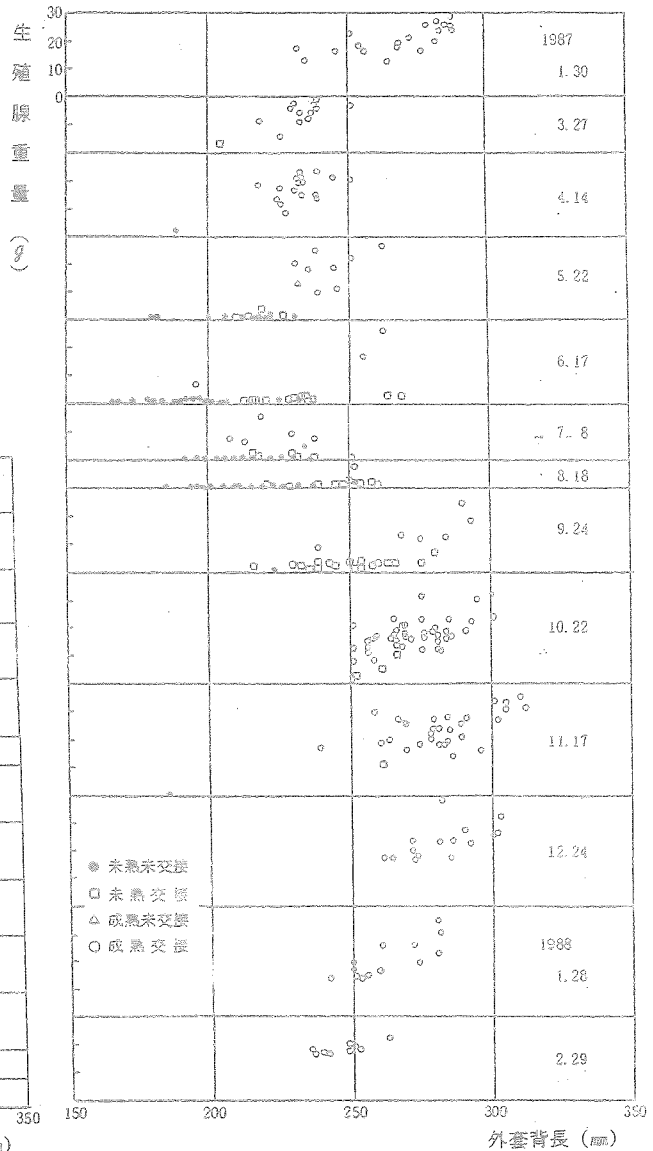


図4 体長と生殖腺重量の関係(雌)

線を破線で示した。これらの結果からみて、漁獲物は冬生まれが主体になっていることがわかる。

カツオ・サンマ 体長測定尾数は表3のとおり。

表3 カツオ・サンマの体長測定尾数

尾, 1987.4 ~ 1988.3

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
カツオ	566	334	—	67	—	—	—	—	—	—	—	335	1,302
サンマ	87	51	—	—	—	—	—	—	339	201	259	—	937

カツオは「昭和62年度カツオ研究協議会会議報告、東北水研、昭和62年10月」に

昭和61年の漁海況

昭和62年1～3月の漁海況

を、また、「昭和62年度カツオ漁海況長期予報会議報告、東北水研、昭和62年12月」に

昭和62年4,5月の紀南沿岸域曳縄カツオの漁海況

をそれぞれ詳述した。

サンマは、第37回サンマ研究討論会（昭和63年3月16～18日、東北水研）において、

紀伊のサンマ漁業

と題して、本県のサンマ漁業、漁海況、資源生物をこれまでの調査から整理して報告した。(第37回サンマ研究討論会報告に印刷中)。

これらの漁海況については、上記報告の他、別途昭和62年度漁況海況予報事業結果報告書に記述した。